



今井小だより

横浜市立今井小学校
令和2年 6月 1日
学校だより 6月号

学校教育目標 : かがやいている子「自分大好き!今井大好き!」

学校が再開します

学校長 森脇 信行



外出できない中、野菜の切り株を育てて楽しんでいました。

木々の緑が目にも鮮やかな季節となり、やっと学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。臨時休業中、お子様はどのような生活を送っていたのでしょうか。学校も当初計画していた、授業参観や修学旅行等、多くの行事や活動を延期または中止にすることになりました。当たり前と思っていたことが、実はそうではないこと、目先の利益でなく持続可能な社会を作っていかなければならないことなど、私たちは、今回の経験で多くのことを学びました。また、緊急事態宣言が解除されても、ウイルスがなくなった

わけではありません。人類と新型コロナウイルスとの共存はこれから始まります。「何が起きてもぶれない持続可能な社会の構築」「ニューノーマルな生活への移行」等、学識経験者から多くのことが唱えられています。学校は何をしたらよいのか、課題は山積していますが、その具体はまだ見えてきません。誰一人正解はわかりませんが、「子どもたちのために、皆で知恵を出し合っていこう。」先日、学校再開に向けて今井小学校の全職員で誓い合いました。保護者、地域の皆様と一緒にこの危機をチャンスに変えていきたいと考えます。



さて、今年度、学校説明会が中止となりお話しできませんでしたが、その内容は別の形でお示ししていきたいと考えております。その中で、今年度から高学年の英語活動の時間が新しい教科となりました。英語活動では担任や外国語講師と一緒に英語で簡単な会話や聞き取りなどを行ってきました。教科になると、それに加えて、英文での読み書きの学習が加わります。子どもたちは国語の時間や普段の生活を通して言葉の大切さや難しさを感じています。私は、この言葉を大切にすることが外国語（英語）を学んでいく基本となっていると思います。英語を学ぶことは日本語とは違った世界の扉を開くこととなります。そして、英語の世界を知ることで日本語の新しい世界を見つけることにつながります。新しい世界を知ったり、見つけたりすることは、これからの時代の子どもたちにとって大切な力になります。その入り口としての、英語の教科化であると考えています。英語で読んだり、書いたり学習に戸惑うことがあると思いますが、ご家庭での支援をよろしくお願いいたします。

